

# RKU Today

流通経済大学広報誌

SPRING 2010

vol. 11

【特集】

## 新たなスポーツのステージへ 大学院スポーツ健康科学研究科開設



流通経済大学

vol.10

## CONTENTS

04

【特集】

### 新たなスポーツのステージへ 大学院スポーツ健康科学研究科開設

文：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

10

【学長室だより】

### 大学及び教育の「公共性」

小池田富男（流通経済大学長）

12

【連載】コロンビア大学留学日記 その2

### ニューヨークで見たこと聞いたこと 目からウロコのアメリカン・ロー・スクール事情

周 作彩（法学部教授）

14

Close Up!

### 流通経済大学 [教職員紹介]

16

【馬場啓一の RKU ウォッチング】

### 「語学を学ぶことを通じて、 その国の文化を理解することができます」—古田朱美教授—

文：馬場啓一（法学部教授）

18

【OB/OG 訪問】立川が聞く。

### 小倉久緒さん（1977年卒業・やまこ産業株式会社代表取締役）

取材：立川和美（社会学部准教授）

20

【留学生紹介】

ナムフォン・チンタラクーン さん（タイ出身）

### 「観光業を通して日本とタイの架け橋になりたい」

取材：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

21

流通経済大学出版会・図書館・校友会からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS



#### 巻頭言

新入生諸君、入学おめでとう。

これから四年間、勉学にスポーツに、そして読書に思索に、  
勤しんで欲しい。

「初心忘るべからず」

こう説いたのは能の大成者、世阿弥である。

その本意は、初めてことに当たったときの状態を忘れるな、  
である。

ここで大事なのは、初めてことに当たったそのときの「不完全さ」  
を、忘れるな、ということで、ウブな気持ち、ではない。

ウブな気持ちは大事だが、世阿弥が説いたのは、初心者だっ  
た時分の不味いワザを憶えておけ、ということなのだ。

初めて大学生になったとき自分がどんなに未熟だったかを  
忘れず、邁進していく中で、いつもそれを思い出せ、

そのように説いているのである。

初心くれぐれも忘れずに励むべし。



## 地域のスポーツリーダーを養成する大学院スポーツ健康科学研究科

これまでのスポーツ科学という学問の発展は、オリンピック大会や世界大会等のビッグイベントで活躍できる選手をいかに育成するか、そのための研究に力が注がれていた。また、現場で指導する指導者にも、競技力向上を目的とした指導が求められていた。現在においても、この事実が変わらないが、スポーツというものが大衆化し、健康志向の高まりによって、スポーツは、競技力向上を目的とした「競技スポーツ」と健康維持や生涯にわたってスポーツを楽しむ「生涯スポーツ」とに変化している。そのため、「競技スポーツ」、「生涯スポーツ」を指導することができ、いわゆるスポーツリーダーが地域には必要となり、スポーツ指導者にも、そういった能力が求められるようになった。

我が国の平均寿命は、男性七九歳、女性八六歳と世界トップ

ブクラスの長寿大国である。この背景には、様々な要因が挙げられるが、スポーツ科学の進歩もその一つの要因といえる。近年我々は、健康志向への高まりがまし、健康で豊かな生活を送ろうとQOL (Quality Of Life

生活の質)の向上を願うようになってきた。また、文部科学省は、「スポーツ振興基本計画(二〇〇〇年)」、「厚生労働省は「健康日本21(二〇〇〇年)」の政策を打ち出し、国民に広くスポーツ・健康増進を振興している。

この様な社会状況を背景に開設されたのが、本学の大学院スポーツ健康科学研究科である。これまでの大学院は、研究者の卵を養成する機関としての役割が大きかったが、本学大学院では、地域でのスポーツ活動のリーダーとして活躍できる人材を養成する、いわゆる高度専門職業人を養成することに重点をおいている。

将来の進路としては次の様な

職場を想定している。

- 地方自治体のスポーツ部局
- 都道府県の
- 広域スポーツセンター
- 市町村の総合型地域スポーツクラブ
- 公共及び民間の保健医療施設
- 民間のスポーツクラブ
- NPO法人 など



## 特集 新たなスポーツのステージへ 大学院スポーツ健康科学研究科開設

文：田畑 亨(スポーツ健康科学部講師)

本学スポーツ健康科学部は、2010年の3月、213名の卒業生を初めて社会に送り出すことができた。大学関係の用語を用いれば、「完成年度」を迎えたことになる。これに伴い、2010年4月からは、新たにスポーツを通じて様々な現場で活躍できる高度専門職業人の養成を目的とした、「大学院スポーツ健康科学研究科」を開設した。また、「完成年度」を迎えたスポーツ健康科学部は、授業内容(カリキュラム)を大幅に刷新し、新たな体制で5年目の年を迎えることになった。今回の特集は、大学院開設の概要と新たなスポーツ健康科学部の取り組みを紹介する。

# スポーツ健康科学研究科 スポーツ科学専攻（修士課程）授業科目

## 共通科目

- スポーツプロモーション論特講
- 研究方法演習Ⅰ・Ⅱ
- 研究指導

### おもに生涯スポーツにかかわる科目

- 生涯スポーツ企画・運営法演習
- スポーツネットワーク運営法演習
- コミュニケーション法演習
- 子どもスポーツ指導法演習
- 中高齢者スポーツ指導法演習

### おもに競技スポーツに関わる科目

- 競技スポーツ企画・運営法演習
- スポーツコーチング法演習
- 技術トレーニング法演習
- 戦術トレーニング法演習
- 体カトレーニング法演習
- スポーツ救急教育法演習
- スポーツコンディショニング法演習
- アスレティックケア法演習

## 専門科目

### 生涯スポーツ領域

#### おもに企画立案・運営に関わる科目

- スポーツマネジメント論特講
- スポーツ行財政論特講
- スポーツ産業論特講
- レクリエーションスポーツ論特講
- ヘルスマネジメント論特講
- スポーツNPO組織・運営論特講

#### おもに指導内容・指導法に関わる科目

- スポーツ文化論特講
- スポーツ教育論特講
- 健康社会論特講
- コミュニケーション論特講
- セルフコントロール論特講

#### おもに対象に関わる科目

- 子どもスポーツ論特講
- 中高齢者スポーツ論特講
- 障害者スポーツ論特講

### 競技スポーツ領域

#### おもに企画立案・運営に関わる科目

- スポーツ組織・運営論特講
- スポーツ情報・戦略論特講

#### おもに指導内容・指導法に関わる科目

- フェアプレイ論特講
- スポーツコーチング論特講
- スポーツトレーニング論特講
- 運動質論特講
- スポーツ技術論特講
- スポーツ戦術論特講
- スポーツ体力論特講
- スポーツ心理論特講
- スポーツ栄養論特講
- スポーツ救急教育論特講
- スポーツコンディショニング論特講
- アスレティックケア論特講

#### おもに指導内容・指導法に関わる科目

- 上記科目の中で、対象に応じた内容を取り上げる。



先述したように、現在のスポーツは「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」とに分けることができる。そのため大学院スポーツ科学研究科でも、それぞれに必要とされるプロモーション能力を養成するための専門科目（領域科目）を展開することによって、実践的能力を幅広く高めるように配慮している。

「生涯スポーツ領域」は、おもに幼児から高齢者までの健常者、障害者の運動遊びや健康・スポーツの実践に関わるプロモーションリーダーとして必要な企画立案・運営・指導に関する能力を育成するためのカリキュラムを用意している。

「競技スポーツ領域」では、おもに競技スポーツ（障害者スポーツを含む）の実践に関わるプロモーションリーダーとして必要な、企画立案・運営・指導等に関わる能力を育成するカリキュラムを用意している。



各領域のスポーツリーダーを養成するカリキュラムの展開

一方、スポーツ健康科学部では、二〇一〇年四月に開設から五年目を迎え、カリキュラムを刷新した。

大きな特徴として、これまで本学で取得することのできなかった日本体育協会公認アスレティックトレーナーの資格を取

得ることが可能となる。アスレティックトレーナーとは、スポーツドクターやコーチとの緊密な協力を行いながら、競技者の健康管理や傷害予防を行った

り、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニングや選手のコンディショニングを整える役割を担っている。スポーツ界において、選手の競技力向上において必要不可欠な存在といえる。

キャンパインストラクター、中学校・高等学校一種免許状（保健体育）と取得可能な資格がより一層増え、社会のニーズに対応した資格を取得することが可能となった。

また、これまでスポーツ健康科学部は、将来の進路に対応した学びの分野としてコース制を設けていたが、このコース制を廃止した。理由としては、スポーツ全体をコースに縛られず、幅広い視点で捉えることが必要であると考えたからである。これまで、幾度となく述べてきたが、スポーツは競技力向上のみを目的としたものではなく、も

はや、子どもからお年寄りまで誰もが行うものである。指導者においても、もはや「勝つための指導法」を身につけるのではなく、健康維持の観点からスポーツを指導できなければならぬ時代となった。またスポーツは、健康維持の手段に留まらず、国

際大会開催による経済の発展やバンクーバーオリンピックでのカーリング競技にみるように、町おこしの手段であったりと国家・地域経済に与える影響が大きくなってきている。このような観点からも、スポーツを学ぶものとして幅広い視点が必要となってくる。

二〇〇六年のスポーツ健康科学部開設以降、社会全体は、大きく変化を遂げてきている。アメリカ発の世界同時不況からの企業の業績悪化、これに伴う新卒学生の内定取り消しや就職率の低下など、学生たちは、先の見えぬ厳しい社会状況の中で大学生活を送っている。スポーツ健康科学部では、開設当初からゼミナールや

海浜実習を通して「人間力」や「生命の尊厳」について理解を深める教育を展開し、いかなる社会状況の変化にも対応できる人材の育成に努めてきた。

新カリキュラムでは、「自他を認め、自ら考え、自ら行動する人間を育成する」といった教育



理念を新たに掲げ、これまでの実績を積みあげてきた科目についての内容の充実を図っていく。

まさに、今回の本学における大学院設置、カリキュラムの改訂はこれからの新たなスポーツのステージに対応する人材育成を目的とするものといえる。

何を学ぶの？

将来の進路は？

スポーツ健康科学部 学びの分野 5つの柱

1 スポーツ教育

教員を始めとする学校教育や社会におけるスポーツ教育現場において、適切な指導ができる方法を専門的に学びます。

体育教師  
スポーツクラブ及び公共スポーツ施設における指導者

2 スポーツトレーナー

スポーツ競技者から健康増進を目指す中高齢者のケア、トレーニング方法などの専門的知識を学ぶとともに、スポーツ現場での事故に迅速かつ適切に対応できる能力を養成します。

スポーツクラブ及び公共スポーツ施設における健康運動実践指導者  
スポーツトレーナー

3 スポーツコーチング

競技スポーツ分野におけるコーチングの知識について、体力的側面、技術的側面、心理的側面などから体系的に幅広く学びます。

プロスポーツ指導者  
地域スポーツクラブ指導者

4 スポーツプロモーション

地域におけるスポーツの普及、スポーツビジネス実践のために必要なクラブ経営・イベント等のマネジメント、マーケティングなどの専門的知識について学びます。

クラブマネージャー  
スポーツ団体職員

5 スポーツ教養

体育教師やスポーツ指導者、スポーツクラブのインストラクターなどに必要な専門的知識に加え、より幅広く・深くスポーツに関する教養について学びます。

体育教師  
公務員  
スポーツクラブ及び公共施設における指導者

学長の活動  
2009年11月～2010年1月

- 11月16日  
日本ホテル協会創立100周年記念  
祝賀会出席
- 11月22日  
常磐大学創立100周年記念式典出席
- 11月24日  
大学協議会開催
- 12月1日  
センター試験担当者依嘱式
- 12月4日  
千葉県高等学校  
大学ガイダンスセミナー講演
- 12月10日  
県立取手一高訪問
- 12月15日  
全学入試協議会
- 12月17日  
県立鬼怒川商業高校訪問  
付属柏高校懇親会
- 12月18日  
茨城県警小風本部長来訪
- 12月22日  
大学協議会
- 12月23日  
つくばね旗剣道大会出席
- 1月8日  
日本私立大学連盟新年交歓会出席
- 1月12日  
学部長連絡会議開催
- 1月16日～17日  
大学入試センター試験
- 1月19日  
日本私立大学連盟学長会議出席
- 1月26日  
全学入試協議会、大学協議会
- 1月27日～29日  
会計検査院実施検査
- 1月30日  
サッカー部関東リーグ優勝祝賀会



の我が国における教育の崩壊は、かつての「教育再生会議」やマスメディアが主張したように、学校教育に「ビジネスマインド」と競争原理を持ち込むことだけで改善できるものではなく、株式会社立大学等の設置は、教育を営利目的の手段にすることで教育の崩壊を助長するものでしかない。このことは、私立大学といえども、私塾とは異なり、高等教育機関としての「公共性」を自覚しながら運営しなければならぬことを意味する。

ここでいう「公共」とは、「公(国)でも「私」でもない、個人の社会的な活動(コミュニケーション行為)が行われる領域を指す。それは近代市民社会によって制度化され、公開性を原則とし、異質な他者との共同性

によって構成される、重層的な空間と捉えてよい。そこでは「共生の作法」としてのルールやモラルが形成されるだけでなく、政治や経済のみならず様々な分野での「集合的な意志」が形成される。ともに「public」と表現されるとはいえず、「公(public)と「私」(private)とは意味が異なる。アダム・スミスがその市民社会論において、「夜警国家」を論じたのも、国家は市民社会を維持させるインフラでしかなく、固有の自己組織性をもった公共領域が存在することを明らかにするためであった。社会や市場は決して「個人の単純集合」ではないのである。

教育もまた、その時々、またそれぞれの地域的特性に応じた、公共目的に沿って行われなければならない。我々の日常生活レベルにおいて、



「学長室だより」  
大学及び教育の  
「公共性」

学長 小池田富男

大学はいくまでもなく公共的な教育機関である。国立大学法人であるか、あるいは私立学校法人であるかを問わない。両者は、将来を見据えた人材の育成と高度な研究によって社会の付託に応えるという共通の目標を持ち、ただ設置基金の出捐者が「国」であるか「私」であるかが違うだけである。その意味において、平成一六年の「国立大学法人化」は、教育機関としての大学の、「国」でも「私」でもない、「公共性」を明確にしたというだけでなく、国立と私立とを対等

に位置付けた点においても、戦後の教育改革の中でも数少ない評価すべき改革であった。ただ、経常費への補助等において圧倒的な格差が見られるように、真の改革というまでにはまだまだ程遠い。

逆に、小泉改革の目玉の一つであった「構造改革特区」における株式会社立大学の設置認可等、教育への市場原理の導入は、「教育の公共性」を無視した愚策であり、そのことは何よりも「LECリーガルマインド大学」等の破たんが証明している。戦後

アダム・スミス Adam Smith  
(1723～1790)  
スコットランド生まれのイギリスの経済学者・哲学者である。主著は『国富論』(An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations)及び『道徳感情論』(The Theory of Moral Sentiments)であり、「経済学の父」と呼ばれている。



コロンビア・ロー・スクールのメイン校舎=Jerome L. Greene Hall。

### ■ロー・スクール・トップ10 (US NEWS & WORLD REPORT のランキングに基づいて作成)

順位	スコア	大学名	08-09年度学費	在籍者数
1	100	エール大学	\$46,000	588
2	95	ハーバード大学	\$41,500	1,730
3	93	スタンフォード大学	\$42,080	539
4	88	コロンビア大学	\$45,674	1,266
5	87	ニューヨーク大学	\$42,890	1,423
6	84	カリフォルニア大学バークレイ校	\$30,944 (州内居住者)	865
6	84	シカゴ大学	\$41,835	593
8	82	ペンシルバニア大学	\$44,330	786
9	81	ミシガン大学	\$41,500 (州内居住者)	1,151
10	80	デューク大学	\$42,936	611
10	80	ノースウェスタン大学	\$45,332	779
10	80	バージニア大学	\$36,800 (州内居住者)	1,155

の建物や施設に個人の名前が冠せられていることが挙げられる。一つ一つ紹介する暇がないが、たとえば、ロー・スクールのメイン校舎は「Jerome L. Greene Hall」、図書館は「Arthur W. Diamond Law Library」、ビジネス・スクールと共同利用している建物は「William and June Warren Hall」といった具合である。Greene Hallの吹き抜け

の階段にも「Skadden stair」と銘打たれていることにはちょっと驚いた。最初のころは建物の名前をなかなか覚えられず、迷子になることもしばしばあった。

てくれたPeter L. Strauss先生の「リーガル・メソッド」と「行政法」の授業を聴講させてもらった。「リーガル・メソッド」は一年生向けに他の授業が始まる前の八月中旬から三週間にわたって行われる集中講義でロー・スクールの導入科目として位置づけられている。ベテランの教授四人が受け持ち、一クラス百人弱の規模である。導入科目といっても、授業のやり方に手加減があるわけではなく、ただ成績評価はA、B、Cではなく合格(Pass/Fail)のみが付くといった配慮がなされている。

授業は座席指定制で、学生が各自事前にイントラネット上で自分の好きな座席を選ぶことができるようになってきている。毎回授業が始まると、Strauss先生はまずA3ぐらいのサイズの、いかに手作りふうな両開きのダンボール紙を教卓の上に立ててそれを見ながら学生に発問していく。百人規模の授業なのに多く学生の名前と顔を覚えているなど最初は関心していたが、あとで聞いたら、あのダンボール紙は実は顔写真付きの座席表だったことがわかった。



右側はロー・スクールで使われるケースブック、左側は日本の法学部で使われる標準的な教科書と判例百選。

というから、開いた口が塞がらない。こうしたアメリカ社会をの経済大国に日本のことが何かもケチくさく見えてしまう。

ちなみに、Law Libraryの中には日本法文献を集めたコレクションがあり、Toshiba Libraryと名づけられている。そこを訪れるまでは知らなかったのだが、そもその由来はなんと私の先生の先生で行政法の泰斗、元最高裁判事・故田中二郎博士の蔵書が遺族から寄贈されたことによる。それがきっかけでそれまで分散されていた日本法文献を一カ所に集めた一九九一年に株式会社東芝からの寄付により専任の司書を置いて現在に至っている。

日本ではソクラテス・メソッドの質疑応答のやり取りという形式面ばかりが目ざされがちであるが、実はその最大の特徴は、判例を素材にして混沌とした事実関係の中から重要な事実を見分け、そこからルールを読み取る能力を徹底的に鍛えることに重点が置かれていることである。そこにはこれがルール、これが法であるという正解はない、あるいはあってもそれを教えることが目的ではない。これが判例法中心の法システムに適した教育法ではあっても、はたして制定法中心の日本でも同じように通用するかは分からない。

だが、大多数の学生はロースを組んでまかなうという。高学費に対する批判がないわけではなく、トップ校の司法試験合格率・就職率が高いから元は比較的簡単に取り返せるらしい。何せ夏休み期間のアルバイト(サマー・アソシエイト)だけで二、三万ドルを稼ぎ(もつとも、これにはロー・ファームに法律事務所による青田買い・先行投資の側面がある)、千人以上の大手ロー・ファームの初任給はなんと年収一六万ドルにもほ

### 【連載】 コロンビア大学 留学日記



コロンビア大学Low Memorial Library前にて。

# ニューヨークで 見たこと 聞いたこと

法学部教授  
周作彩 ZHOU Zuocai

その2

## 目からウロコのアメリカン・ロー・スクール事情

前は留学生活のセットアップにあたって様々な不自由を強いられた話をしたが、今回はアメリカのロー・スクール事情について紹介したい。

ロー・スクールとは法曹(裁判官や弁護士など法律専門職に従事する人々)を養成する専門職大学院のことである。修業年限は通常三年で、修了するとJuris Doctor(法務博士)の学位が与えられ、合衆国すべての州の司法試験受験資格が得られる(J.D.プログラム)。アメリカには日本の法学部に相当する学部がなく、ロー・スクールにはいろいろな学部の出身者、多様な職業経験の持ち主が入学してくる。このほか、法学既習者のための一年コースもあるが、こちらはほとんど留学生在が対象であるといつてよく、世界各国から入学者が集まってくる(L.M.プログラム)。うまく行けば一年でニューヨーク州の司法試験受験資格が得られるとい

まず、アメリカのロー・スクールの学費は非常に高いことに驚く。日本の法科大学院の学費は国立では年間約八〇万円、私立では約一〇〇〜二〇〇万円超だが、アメリカのロー・スクールは一部の州立大学を除いて軒並み四万ドル超となっている。ちなみに、コロンビアの授業料は年間約四万六千ドル、諸費用を含めると約五万ドルとなる。こんなに高額な学費をどうやってまかなっているのか不思議だっ

だが、ほとんどの学生はロースを組んでまかなうという。高学費に対する批判がないわけではなく、トップ校の司法試験合格率・就職率が高いから元は比較的簡単に取り返せるらしい。何せ夏休み期間のアルバイト(サマー・アソシエイト)だけで二、三万ドルを稼ぎ(もつとも、これにはロー・ファームに法律事務所による青田買い・先行投資の側面がある)、千人以上の大手ロー・ファームの初任給はなんと年収一六万ドルにもほ

ビア大学ロー・スクールには毎年四〇〜五〇名ほどの客員研究員が滞在している。

日本でも、司法制度改革の一環としてアメリカのロー・スクールを範とした法科大学院制度が二〇〇四年から導入され、現在七四校もの法科大学院が開校している。しかし、コロンビア・ロー・スクールに一年間滞在してみて、日本の法科大学院は似て非なるものであり、ロー・スクールは簡単にまねできるものではないし、またその必要もないと強く感じた。以下、思いつくままにロー・スクールについて感じたことを述べてみたい。

クリスマスをはさんで12月〜1月にはCollege Walkがライトアップされる。



クリスマスをはさんで12月〜1月にはCollege Walkがライトアップされる。



【管財課】  
山崎将義



【スポーツ健康科学部】  
坂本 充 准教授



【法学部】  
大塚祐保 教授



【流通情報学部】  
小林憲一郎 教授



【社会学部】  
佐藤克繁 教授



【経済学部】  
朱 思琳 准教授

### たかが“挨拶” されど“挨拶”

私は2004年に本学経済学部経済学科を卒業した36期生です。新松戸キャンパスが開校した時に職員となりました。入職後は、学生生活課で4年間、現在は管財課で3年目となります。学生生活課の配属になり、大勢の学生が窓口に来課し、学生生活に関する事、課外活動の結果報告、悩みを抱えている学生の相談など様々でした。その部署に携わり、どんな学生にも気持ちよく挨拶をすることを覚え、現在の管財課に異動後も、挨拶をする相手がさらに広がり学内や業者、全ての人と挨拶を交わすことが、私の仕事の一つになりました。

学生の皆さん。親、先生、友人、先輩、後輩との間で挨拶はできていますか？人によっては「恥ずかしい」「面倒くさい」などと考えている学生もいると思います。何気ないことですが、どんな時であれ「挨拶」ができる人間は周囲から見ても良い印象を与えます。「挨拶」など、大学生になってまで言う話ではないかもしれない。4年間で規程単位数を取得し卒業することは、当たり前。同時に人前でもしっかりと「挨拶」もできる流経大生となってほしいです。

### スポーツを通じた 地域貢献を実践

長崎県島原市出身。最終学歴は、日本体育大学大学院体育学研究科修士課程修了。

学生時代には今や、正月の風物詩でもある、箱根駅伝に出場した経験をお持ちの先生である。長距離の選手ということもあり、細身の身体でジャージがとても似合う先生でもある。

専門は健康づくり。スポーツを通じた地域貢献を実践されており、一般市民を対象にジョギングやウォーキング、卓球などのスポーツを取り入れ、健康・体力づくり教室を開講している。2ヶ月に1回は、参加者と山登りもされている。

この教室を通して、参加者から「膝の痛みが治った」「肩こりが治った」などの健康の改善の声を聞くことが一番うれしいと先生は語る。また、先生のゼミ生がこの教室をサポートしており、将来指導者を目指そうとする学生の指導にもあたっている。

部活やサークルを通して、何か「一つ」でも自慢できることを身につけてほしいと学生にメッセージを送っている。

(田畑 亨・記)

### 龍ヶ崎を活性化、 住み良い街に

地方自治論と都市政策論を講じていらっしゃる大塚祐保先生。地元龍ヶ崎市の行政改革懇談会の座長を務め、講義の傍ら多忙な毎日だ。

「龍ヶ崎という東京から50キロ圏の都市を、いかに活性化し、住み良い街づくりを実現させるか、という理念の基に設けられました」

もう7、8年務めておられるという。

「財政難の折から、アイデアつまり創意工夫で、なんとか良い結果を出そうと努力しています。市役所の皆さんも真剣です」

著書として『都市政策試論』をお書きになっている大塚先生。これからの都市の方向性を問う内容である。一方に理論があり、もう一方に、その実践に繋がるお仕事がある。行政改革懇談会の職務は、大学人として理想に近いお仕事ではないだろうか。

「理論を生かし、それが理想の街づくりに反映するようにと、心掛けています」

満足のいく結果が出ることをお祈りしたい。

(馬場啓一・記)

### 中小企業、地域などの 「ブランド化」を研究

流通情報学部が誕生してから15年が経ちます。私も数少なくなってきました開設時メンバーの一人です。当学に奉職する前に、私は東京都商工指導所という機関で、もっぱら商店や商店街などの商業関係の診断・指導・相談・研究に従事していました。この経験から当学では「商業経営論」「マーケティング実践論」などを担当しています。

現在、私のもっとも興味ある分野は「ブランド」です。確立されたブランドはもちろん興味ありますが、むしろ中小企業、地域などが、どのような手段を用いれば「ブランド化」できるのか、に深い関心があります。換言すればブランドよりも「ブランド化」を研究している、といえます。

ブランド化には「限定品マーケティング」が不可欠である、との結論に達しましたが、さらに「こだわり」「ストーリー性」「ITの活用」などのキーワードを限定品マーケティングに付け加える必要がある、と思っています。

### 私の1ページ

ある大学のキャンパスを毎日散歩している親子がいた。親子の姿が大学教員の目にとまり、それ以来その教員は親子を案じ続けていたが、やがて教員のほうから親子に話しかけ彼らの交流がはじまった。実はその子は自閉症の診断を受け、当時の医学では子どもの治療のみならずケアの方法さえも十分な知識がない状況でなす術もなく、散歩が唯一の楽しみであったようだ。教員は、この親子の生にふれ、彼のできることは何かと自問し、せめて「自閉症児との接し方」を調べてみようかと決心したのだった。私は、ちょうどその頃に大学に入学し、2年生の時にこの教員と出会うことになる。ケースワークの翻訳研究会がきっかけだった。早朝からのきつい研究会であったが、8時頃になると奥様の差し入れがいただける温もりのある会でもあった。今は故人となられたが、その後先生はわが国でも著名な自閉症研究者として多くの人材を育て、多くの方々に「人の生」に関わる厳しさと大切さを教えてくれた人物として、私の1ページに深く刻み込まれている。

### 財政学との出会い

1990年代の初期に来日した私は、横浜国立大学の金澤史男先生と出会ったおかげで、財政学の世界へと導かれた。日本は市場経済の国であるにも関わらず、中央政府主導のもとで、財源再分配を中心とした大規模な地域間の財政調整が行われている。地方行財政サービスの水準がナショナルミニマム原則の下でほぼ均一となっており、地域間の格差が限りなく縮小されていることは、計画経済の国から来た私にとって魅力的で、同時に自分の中で問題意識として抱え始めた。これは財政学との出会いである。

そもそも市場経済の下ですべて解決できれば、政府の役割が最小限に抑えられるべきであるが、いわゆる市場の失敗によって政府の介入が正当化されている。そして、政府の大規模的な介入は財政規模の拡大を要求するから、結果として先進各国とも財政赤字に悩んでいる現状である。市場と政府の守備範囲は国によって、経済発展段階によって変化している。政府がどこまで市場に介入すればいいかは実に財政学の魅力なところである。





「昨年の夏、北京の地下鉄で、かつての教え子に再会したんですよ」  
別の車両に乗っていたのに、向こうがめざとく先生を発見し、邂逅。共に手を取って喜びあったという。

「日本人の学生でも、中国語が堪能で、それが理由で大きく抜擢された例もあるのですよ。たとえば、ある学生は卒業後茨城県警に入り、その語学力を認められ、北京オリンピックの機に大使館付きとなり、大活躍しています」  
正に芸は身を助く。  
「流通経済大学は中国との交流が盛んですね、と嬉しい評価をいただいています。語学を学ぶことを通じて、その国の文化を理解することが出来ます。近い位置にある日本と中国が、今後いっそう、関係を深めて欲しいですね。学生たちに、外国語



古田先生の研究室に飾られていた年画。年画とは中国で正月（春節）を祝って飾る絵のことで、これは福の字をデザインした「福字」と呼ばれるもの。「福」・「禄（財）」・「寿」は古来からの中国人の願望である。

# 馬場啓一の RKU ウォッチング

【第11回】  
流通情報学部  
古田朱美教授



●古田朱美/ふるた・あけみ

中国・北京市出身。日本大学大学院文学研究科中国語専攻博士前期課程修了。中国の食文化などをテーマに研究活動をしている。著書としては『中国文化と世界』（上海外語教育出版社）、また論文では「万葉時代の日本と中国の食文化」などがある。現在、流通経済大学で中国語と演習を担当。



「語学を学ぶことを通じて、その国の文化を理解することができます」



流通情報学部で中国語の教鞭をとられて二十数年になられる古田朱美先生。北京にある姉妹校に学生を留学させるための指導もされている。  
その成果が実を結び、卒業生たちは中国をはじめ、台湾、ベトナム、香港と、アジア各地で活躍しているという。  
「大学で教えている喜びは、教え子たちが立派に巣立ち、社会の様々な面で貢献しているのを知る時ですね」  
古田先生は北京生まれの台湾育ち、流暢な日本語を話される。ちなみにお母様は、戦前に日本に留学され、医学を学ばれた女医さんであられる。なるほど、先生はご幼少の頃から、日本文化に深く馴染む環境で育ってこられたのか。

十三億分の一の偶然である。「彼女は中国からの留学生で、本学の大学院を終了後、北京にある日本通運の支店に勤めました。優秀なので、破格の待遇だと聞きました。なによりも、本学で学んだ事が母国で役に立っているということ、また彼女がそのような周囲からも認められているのは、自分の事のように嬉しい。教師冥利に尽きますね」  
「桃李満天下」（教え子が至る所にいる）とは、まさしくこのことか。

「彼女が中国からの留学生で、わかってもらいたい。きちんと勉強すれば上達できるのですよ。積極的に取り組むことを期待しています」  
美味しい鉄観音というお茶を淹れながら、こう言われた。  
「今、研究仲間と明代の古典書の翻訳にとりくんでいます。難解ですが、とても面白い。古典も現代に生かすことができます。道教と食に関連した書物ですが、時々その長寿食のレシピを再現して楽しんでいきます」  
日々、指導や研究にお忙しい古田先生、どんな息抜きをしておられるのか？  
「趣味はテニスとお料理です。週一回は大好きなテニスをしています」  
と、ニッコリと笑ってテニスの試合で得たトロフィーを見せてくださった。



● 厳しい時代だからこそ  
夢を持ってチャレンジする  
姿勢を持ってほしいと  
思います。

OB/OG訪問

## 立川が聞く。

*Tachikawa hears.*

「もったいない」の精神のもと、有機資源の再生利用によって循環型社会の実現を目指す企業、やまこ産業株式会社を経営されている小倉久緒さんにお話を伺ってきました。

### 小倉久緒 さん

(1977年 経済学部卒業)

Hisao Ogura

取材/  
立川和美(社会学部准教授)



「やまこ産業」は、油脂リサイクルというめずらしいシステムを手がけていらっしゃると思いました。

当社は、ポテトチップスやラーメンなどの製造ロスから油脂分を分離して、油分を工業用石鹼などに、固形分を家畜飼料などに、さらに土壌改良材などを生産する「有機資源再生利用」を行っているオンリーワンの企業です。創業当時(昭和二十二年)は、菜種油をつくる搾油業を営んでいたのですが、現在では4R (reduce, reuse, recycle, respect)の「もったいない」の精神に根差した、こうしたリサイクル事業が中心です。

「こういった事業をなさるようになったきっかけは、どのようなものだったのですか？」

一番最初は大学四年生の夏に

参加したボランティアでしようか。茨城県の八郷町で開催された有機農業の学生ボランティアに参加しまして。当時ちょうど、有吉佐和子の「複合汚染」やレイチェル・カーソンの「沈黙の春」などが発表され、また産直運動が盛んになりはじめて、そういったことに関心をもち、卒業論文のテーマとしたことがきっかけです。有機農産物を作って流通させる動きが始まった時期ですが、その頃からかれこれ三〇年以上になりますね。

「では、学生の頃から、将来的には有機農業に関連するお仕事をなさろうとしていたわけですね。」

わたしはひとりっ子でしたので、たしかに将来は搾油業である家業を継ぐということを意識はしていました。しかし大学生の頃のボランティアの経験などは、むしろ個人的な興味に基づいたものであったといえると思います。そこを出発点として、めぐりめぐって現在の仕事につながったわけです。仕事として、本格的に有機肥料を生かした地域循環のリサイクルを考えて取り組むようになったのは、今か

ら一、二年くらい前です。そういった意味では、仕事と自分の関心や趣味が一緒だったという、とても恵まれた環境にありますね。

「流経大では経済学部経営学科に在籍され、かなり勉強をされた」と伺っておりますが。

いやいや、そんなに勉強したわけではありませんが、授業は、いつも緑色のジャンパーを着て一番前の中央の席に陣取って受

けていましたね(笑)。教職も含めて二、三〇単位取得し、卒業式では総代を務めることができましたのはとてもよい思い出です。またE S Sクラブに所属していたのですが、つくばね祭で英語劇「チップス先生さようなら」を上演した時に、女子部員がいなかったために女性の役を演じたりしたことも、楽しい思い出です。

大学を卒業して社会に出て二年后にもう少し勉強したいと考えて、早稲田のビジネススクールに一年間通いました。この時に様々な業種の社会人の方と出会ったことで、自分の視野が広がり、大変刺激をうけました。また今の仕事を始めるようになってから新たに必要と感じ、群馬大学工学部の短期大学部に編入して、応用化学の勉強もしました。ですから私にとつての勉強とは、周りから強制されるのではなく、自発的に興味を持ったことを掘り下げていくものなんです。こうして自分の意志によって始めるものが、本当の勉強なのではないかと考えています。

現在は、会社の経営者として

お忙しい毎日ですが、お仕事をされる上で大切にされていることは何でしょうか？」

まずは信頼です。取引の時でも相手がどれだけ信頼してくれ、るかが大きな鍵になりますから、信頼を得ることが、何ものにも代えがたい財産だといえます。

それから、人と人とのつながりです。流経大の卒業生にも社会の様々なところで活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。私自身、大学を卒業してから、取引を通じて知り合ったOBもおり、一人一人、個性の豊かな人が多いことが流経大の特徴だと思えます。そうした人の輪というものを、大切にしています。

最後に、流経大生にひとことお願いいたします。

今の時代は、いい大学を卒業していい会社に勤め、それで終わりというわけではありません。大きい会社にはみつくのではなく、時代の変化に対応して生きていくことが、大切だと思います。いろいろな意味で厳しい時代ですが、夢をもって挑戦する、チャレンジする姿勢を持って下



取材当日は朝からあいにくの雪模様でしたが、駅までお出迎えを頂きました。またご一緒に会社を切り盛りされている奥様からもご挨拶を頂戴し、温かで活気にあふれる会社を見学させていただきました。プライベートでは三女二男のお父様ということで、すでに社会人としてご活躍されているお嬢様や高校受験を控えたご子息のお話をされた時の、家族思いの優しい表情が印象的でした。



*Tachikawa hears.*

流通経済大学出版会・図書館・校友会からのお知らせ

出版会

新刊紹介

『企業間関係の構造  
—企業集団・系列・商社—』

島田克美 著  
(A5判上製・366頁 4,410円)

失われた日本経済の20年、企業システムをめぐる議論は混迷を続けた。その中で本書は時流に流されずに企業間関係の論理を探り内実を分析している。企業集団においては独立企業をベースにした行動の相互性と集団性、系列においては企業の地位の上下に基づくパワー関係、商社においては商権形成行動とネットワーク統合戦略、これらこそ決定的に重要である。企業を、とすれば市場の中のバラバラの組織と捉えがちな議論の空白を埋める注目の一書。



『社会学は面白い!  
—初めて社会学を学ぶ人へ—』

流通経済大学社会学部入門書  
編集委員会 編(B5判・280頁 1,575円)

社会学を志す若者が減少している。さまざまな動機・学力・希望を抱いて入学してくる新入学生を対象に、社会学の面白さや有用性、さらには大学における学習や研究についてわかりやすく解説する。社会学を学ぶ学生の記憶に残る一書。



図書館

2009年度  
読書コメント大賞決定

流通経済大学図書館が開催している読書コメント大賞は、本を読み、どう感じ、何がよかったかなどのコメントをポップ広告風の作品にまとめてもらい、その中から優秀な作品を選考する企画です。

2009年度は161点の応募があり、その中から年間コメント大賞1点と年間優秀賞2点が選ばれました。



年間コメント大賞



01 光岡佑美  
(社会学部社会学科3年)  
『マイケル・ジャクソン裁判』  
アフロダイテ・ジョンズ 著  
(ブルース・インターアクションズ)

02 杉浦 直  
(経済学部経済学科4年)  
『時計の社会史』  
角山 栄 著(中公新書)

03 高橋佳那  
(経済学部経営学科3年)  
『天国からはじまる物語』  
ガブリエル・ゼヴィン 著(理論社)

年間優秀賞



校友会

台湾支部総会開催

2009年12月11日、流通経済大学校友会台湾支部総会が太平洋SOGOのレストランで開催されました。出席者は陳池元支部長(14期生)をはじめとする会友17名。その内訳は男子13名、女子4名で、それぞれさまざまな職業に就かれ、台湾各界のリーダーとして活躍されている方々です。この開催にあわせ、本部からは石川会長、池澤事務局長、そして台湾支部長と同期の宮本副運営部長も参加しました。



タイ王国の首都  
バンコクで育ち、12歳の  
頃から、親の仕事の関係で  
日本とタイを行き来するなか、  
18歳から日本で生活を始める。  
日本での生活は3年経過  
しています。

取材/田畑 亨  
(スポーツ健康科学部講師)



Hello!  
international  
student!  
留学生紹介  
vol.11

社会学部  
国際観光学科2年  
ナムフォン  
チンタラクーン さん  
นามฝน ชินตรรากูน  
タイ出身

観光業を通して日本とタイの架け橋になりたい

—日本での生活はどうですか?  
タイには、冬という季節がないので、日本の寒さは辛いです。それと日本の地震には驚きました。震度4を経験したときには、大変怖い思いをしました。でも、日本で生活することは、とても楽しいです。日本の食べ物では、味噌ラーメンと焼肉が好きです。それと、日本のファッションはとても華やかで、ファッション誌を読むのが大好きです。日本の温泉を大変気に入りました。タイの習慣には、大勢の人々と裸でお風呂に入る習慣がないので、最初はとても恥ずかしかったのですが、温泉に入るととても気持ちよく、リラックスすることができ、好きになりました。

—ナムフォンさんは、内閣府が企画した「JAPANTEN T」※のイベントに、本学から始めて参加されたそうですが、ここでは、どの様な体験をしましたか?  
JAPANTEN Tでは石川県に行き、そこで、ホームステイをして日本の文化に



仕事をしたいと考えています。

ついて勉強しました。その中で、お茶会が催され、日本古来のスタイルでお茶を飲みました。また、ホームステイ先の家族の方々にとても親切にしてもらいました。おいしい味噌ラーメン屋にも連れていってもらいました(笑)。

—現在、社会学部の国際観光学科で勉強をしています。将来はどの様な職業に就こうと考えていますか?  
将来は、日本、タイどちらで働くか検討中ですが、流経大で観光学をしっかり学び、観光業を通して、日本とタイとの架け橋になれるような仕事をしたいと考えています。



※JAPANTEN T  
世界各国からの留学生、研修生たちが石川県に集い、県全体を交流の場「JAPANTEN T」として県民との交流を行うイベント。「世界に開かれた国づくり・地域づくり」を人と人のふれあいを通して推進し、未来に向けて石川から新たな世界像を創造することを目標とする。一九八八年の夏に始まったこのイベントは、産学官民の純粋なボランティア精神によって支えられ、これまでアジアやヨーロッパの各国、アメリカ、ロシア、オーストラリアなど一〇〇を超える国と地域からの留学生が参加している。



## RKU Schedule

2010年4月～  
2010年7月

### 全学

[4月]・入学式  
・RKU WEEK  
・春学期授業開始  
[6月]・海浜実習(スポーツ健康科学部のみ)  
[7月]・春学期授業終了

### 就職関連

[4月]  
第1回就職ガイダンス【就職への心構え】  
[5月]  
第2回就職ガイダンス【自己分析対策1】  
[6月]  
第3回就職ガイダンス  
【ゼミ別・就職活動の諸手続き】  
[7月]  
第4回就職ガイダンス【自己分析対策2】

### 【編集後記】

■新学期がスタートしキャンパスには若者の明るさと躍動感が感じられる。

新入生は、4月2日から9日まで、高校生活から大学生活へ円滑に移行できるように導入教育として実施しているRKU WEEKを終えたばかりである。これから始まる学生生活が充実したものになることを切に願う次第である。

新入生は、講義を休まずきちんとノートをとるといった基本的なことはもちろん友人を作るなどして有意義な学生生活を送っていただきたい。資格取得を目指し課外講座を受講することや運動系や文化系の課外活動に取り組み青春を謳歌することなどやろうと思えば多彩な選択肢がある。真の実力をつけるため精一杯努力し4年後には充実感に溢れた笑顔で社会に飛び立っていただきたい。

■話題は変わるが、現在わが国の景気の先行きにまだ暗雲がちかめている。一昨年秋のリーマン・ブラザーズの経営破綻以降、世界を震撼させた不況の嵐はまだ収まっていない。一部には景気回復に向けて兆候が出てきているようであるが、本格的な景気回復には至っていない。

4年生は、就職活動に取り組んでいるが、一時も早く景気が回復し希望の道を進めるように願う次第である。そんなにも苦労することもなく就職が内定する学生がいるかと思えば内定するまでに時間がかかる学生もいる。しかし、勝利を信じて就職活動に取り組み栄冠を勝ち取っていただきたい。いつかは勝利の女神が微笑んでくれるはずである。

それにしても、一日も早く景気が回復することを切に願う次第である。

■さて、今号の特集は4月に開設された大学院スポーツ健康科学研究科の紹介である。本学はこれで5学部と大学院5研究科が設置されたことになり、教育・研究の更なる充実が図られたことになる。

今号で11号を迎えた本誌は、これからも皆様からのご意見、ご要望をいただき誌面のより一層の充実努力していく所存である。

(編集子)

## 05

### ラグビーフットボール部 感謝会

シーズンを終えたラグビーフットボール部が、応援いただいた関係者の方々に感謝の意をこめて、1月31日に龍ヶ崎キャンパスで感謝会を開催しました。新三役(大将・寮長・主務)の発表や部歌の大合唱など、ますますの活躍を期待させる会となりました。



## 06

### 卒業論文発表会

学内で社会学科、国際観光学科、流通情報学科の卒業論文の発表会が行われました。学生たちは緊張した面持ちで、4年間の集大成となる卒論について発表していました。



## 07

### 柔道ワールドカップ・ ウィーンで中井君が優勝!

柔道部の中井貴裕君(ビジネス法学科1年)が、2月15日にオーストリア・ウィーンで開催された柔道のワールドカップ・ウィーンに出場し、男子81kg級で優勝しました。

## 03

### サッカー部 優勝祝賀会開催

1月30日、サッカー部の関東大学リーグ優勝祝賀会が、地元龍ヶ崎のサポーターやサッカー協会、Jリーグ関係者など多くの方にご来場いただいた、都内のホテルにて開催されました。途中、JやJFLのチームに加入する選手の発表も行われ、盛大な拍手を浴びていました。



## 04

### 就職合同勉強会

1月30日、就職活動支援サークルR↑KUが中心となり、就職活動セミナーが新松戸キャンパスにて開催されました。

当日は川村学園女子大学の就職サークルCr+(クレイン)の方々も参加し、自己分析や本学OBによる社会人としての意識についての話など、盛りだくさんの内容となりました。



左から、児玉理事長、中井選手、岩崎監督(柔道部)、平山事務局長

## 01

### 2009年度卒業式

3月20日、昨年完成した龍ヶ崎キャンパスのスポーツ健康センターメインアリーナを会場として、2009年度卒業証書授与式および学位記授与式が行われました。今回はスポーツ健康科学部からも初の卒業生が誕生し、全学で約1,263人の学生が社会へ、進学へと、それぞれ新たな一歩を踏み出しました。

また、卒業式終了後、学生会が主催する卒業生を送る会「〇〇会(マルマル会)」がスポーツ健康センターのサブアリーナで開催されました。卒業生は先輩たちから贈られる演奏や演技などを楽しみつつ、4年間の大学生活を感慨深く振り返っているようでした。



## 02

### 業界・企業説明会

1月下旬に両キャンパス合わせて、約140社の人事担当者の方が本学学生のために来学していただきました。就職氷河期時代といわれ、就職活動への関心が高まるなか、各分野の人事担当者の方々から伺った話は、必ず学生たちの進路選択に役立つものと思われます。



# NEWS & TOPICS

# Welcome to OPEN CAMPUS!

## オープンキャンパス 始まります!

流通経済大学を見る、感じる、知る、  
そんな体験ができるオープンキャンパスが今年も始まります。  
学部学科の説明や先輩たちによるキャンパスツアー、  
学食体験など盛りだくさんの内容でお待ちしています。



### メニュー

- ・学部学科発見コーナー
- ・模擬授業／体験実習
- ・学食体験
- ・先輩とのフリートーク
- ・キャンパスツアー
- ・保護者説明会 など

### 6月・7月の開催日

- 龍ヶ崎キャンパス  
6/12(±) 7/31(±)
- 新松戸キャンパス  
6/19(±) 6/26(±) 7/24(±)

### 開催時間・お問い合わせ

10:30 ~ 15:00

※事前のお申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。

■ お問い合わせ  
TEL: 0297-60-1156 (入試センター直通)  
<http://www.rku.ac.jp/go>

# RKU

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.11** 2010年4月発行

編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL: 0297-64-0001 (代表)

